

防災教育

全体計画(「小千谷市中学校防災教育」より)

**小千谷市・魚沼市・長岡市
川口 防災教育推進会議
の指針**

- 学校防護体制の整備
 - ・学校施設の安全確保
 - ・防災組織の整備
 - ・地域防災組織との連携
- 震災に学ぶ防災教育の推進
 - ・防災教育の推進
 - ・ボランティア教育の推進
 - ・防災教育の評価
- 心のケア
 - ・児童生徒・保護者・教職員の心のケア
 - ・教職員のカウンセリング研修
- 教育の復興
 - ・教育復興担当教員の配置
 - ・震災支援チームの設置
 - ・情報ネットワークの活用

家庭・地域との連携

- 防災意識の確立
- 危険箇所の確認
- 災害時の連絡網の確立
- 自治防災組織と連携した防災訓練への参加
- 避難場所の確認
- PTA活動における連携
 - ・家庭における防災体制の確立
 - ・防災等に関する研修会の実施

**小千谷市の中学校における
防災教育の目標**

中越大震災の教訓を生かした防災教育を推進し、子どもたちが災害から生命を守るために必要な知識や技能を身に付けるとともに、互いに助け合い、力強く生活していく資質や能力を養う。

- ◎災害から自らの生命を守るために必要な能力や態度を身に付ける。
- ◎助け合いの心や思いやりの心を高め、生きる力を育む。
- ◎地域の自然と災害についての理解を深める。

東中における具体的実践事項

- ①年2回の避難訓練(火災、地震)を行う。
- ②避難訓練のうち1回は、市制定の「中越大震災の日」に防災への意識を高めるために実施する。
- ③不審者に対する避難については、状況を想定するなど具体的に行動できるような授業を実施する。
- ④2年生を対象に、応急手当、心肺蘇生、AED等の講習を行う。
- ⑤県の防災教育プログラムを3年間で実施する。
 - 1年生・・・洪水災害、津波災害、雪災害
 - 2年生・・・土砂災害、地震災害
 - 3年生・・・原子力災害

**学校防災体制整備推進
の基本方針**

- ①防災対応マニュアルの作成
- ②学校における防災教育カリキュラムの位置付け
- ③防災教育の実践と評価の在り方
- ④防災教育に関する教職員研修の実施
- ⑤日常の安全点検と危機回避の在り方
- ⑥児童・生徒や教職員等の心のケア対策とカウンセリング研修
- ⑦家庭・地域社会・行政との連携
- ⑧学校の避難所としての対策

**新潟県教育委員会が示す
防災教育・防災体制の視点**

- 安全管理の徹底
 - ・定期的な安全点検
 - ・機能する防災計画と防災体制
- 安全教育の充実
 - ・災害による危険、安全な行動の仕方、応急手当、災害時のボランティア学習などを計画的に指導
 - ・防災訓練の実施(年2回)
- 家庭や地域社会と連携した防災活動の推進
 - ・災害時における学校の役割を再認識
 - ・学校が避難所になった場合の教職員の役割分担などの検討
 - ・災害時の連絡方法の検討
 - ・地域と一体になった防災訓練
- 被災した生徒の健康管理への配慮等
 - ・健康相談と心のケア
 - ・災害後の臨時環境衛生検査(飲料水など)

＜教育課程内における防災教育＞

技 能

- 災害発生時に安全にすばやく避難することができる。
- 簡単な応急処置ができる。
- 避難後の生活の仕方を学ぶとともに協力しあって生活ができる。

知 識

- 自然災害の種類と発生の仕方について学習する。
- 今後、予想される災害について防災体制を考える。

心

- 生命を尊重する心を育てる。
- 人とのふれあいを大切にする心、感謝の心を育てる。
- 協力・奉仕の心を育てる。

教科(総合)

- ・地震を含む自然災害発生のメカニズムと生活に与える影響(理科・社会・総合)
- ・災害時の安全な行動の仕方と理解(保体・総合)
- ・地域の自然・地形の特色(理科・社会・総合)

道 徳

- ・生命の尊さ
- ・健康で安全な生活
- ・支え合う心、助け合う心
- ・奉仕の心
- ※「道徳」の時間だけでなく、すべての学校生活で実践する。

特別活動

- 生徒会活動
 - ・ボランティア活動、町内会における危険箇所の確認
- 学校行事
 - ・避難訓練、安全教室
- 学級活動
 - ・健康安全に関する指導

年間指導計画

| 時期 | 対象：() は担当 | 内容 | 留意点 |
|-----|---------------------|---|--|
| 4月 | ・全校 (学級担任) | ○避難経路の確認 | ・年度初めに確認し、いつ災害が起きてもいいように準備する。 |
| | ・全校 (町内会) | ○危険箇所の確認 | ・地域の危険箇所を意識させる。 |
| | ・全校 (学校防護・学級担任) | ○不審者対応 | ・過去の事例資料を用意し、自分たちにも起こりうることへの意識をもたせる。 |
| 5月 | ・全校 (学校防護) | ○避難訓練① (火災) ※消防署より指導を受ける。 | ・事前準備をしっかり行い、生徒の真剣に取り組ませる。 ・自己評価をさせ、自分の取組を振り返らせる。 |
| 6月 | ・1年 (学年・学級担任) | ○洪水災害 ・具体的な避難方法を考える。 ・避難できない人間の心理を理解する。 ・自然と向き合い、防災に取り組む姿勢を学ぶ。 | ・新潟県の防災教育プログラムを活用する。 |
| | ・2年 (学年・学級担任) | ○土砂災害 ・土砂災害から身を守る方法を考える | ・新潟県の防災教育プログラムを活用する。 |
| 9月 | ・2年 (保健体育科・養護教諭) | ○救急法講習 ・講話と実習 | ・消防署に講師をお願いする。 |
| 10月 | ・全校 (学校防護・学級担任) | ○中越大震災の日 ・避難訓練② (地震) | ・事前準備をしっかり行い、生徒に真剣に取り組ませる。 ・自己評価をさせ、自分の取組を振り返らせる。 |
| | ・2年 (学年・学級担任) | ○地震災害 ・自身の発生状況に応じた身の守り方を学ぶ。 ・避難所と避難者について考える。 | ・新潟県の防災教育プログラムを活用する。 |
| 11月 | ・1年 (学年・学級担任) | ○津波災害 ・津波の仕組みを学ぶ。 ・新潟県の津波被害を学ぶ。 ・津波からの逃げ方を学ぶ。 | ・新潟県の防災教育プログラムを活用する。 |
| | ・3年 (学年・学級担任) | ○原子力災害 | ・新潟県の防災教育プログラムを活用する。 |
| 1月 | ・1年 (学年・学級担任) | ○雪災害 ・様々な雪の災害から対策を考える。 ・冬のボランティア活動について考える。 | ・新潟県の防災教育プログラムを活用する。 |